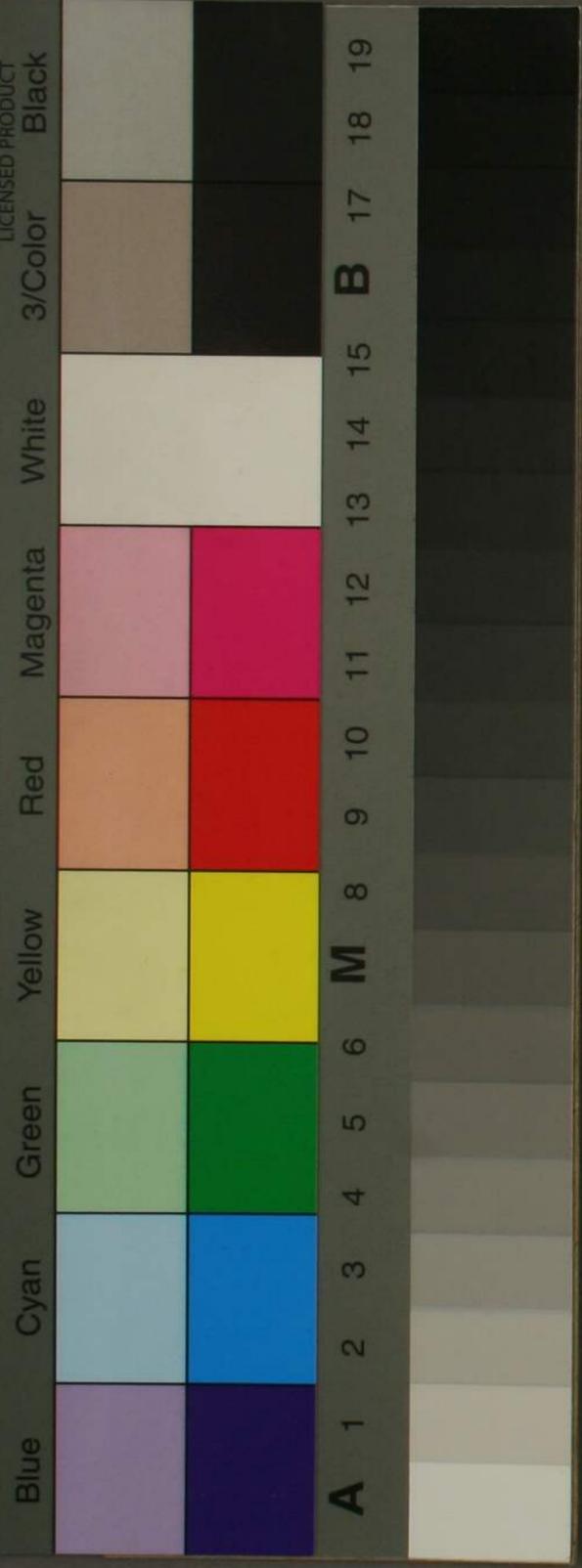


Kodak  
LICENSED PRODUCT

© The Tiffen Company, 2000

KODAK Color Control Patches



初學和歌式

詞讀  
方

特 別  
 ~4  
 8110  
 4



4  
8110  
4

○ 瘧

初瘧

瘧のひまのあつたときを又ハ人つてまはすてこぬ  
 ちひそむるんともむむ瘧のひまよそてハ入そむるよ  
 りらくくまを連づてハいふあんともしひ浦舟よこと  
 してハなれそむるとも又ハ神のあうそむるよりま不  
 づあふ縁づてハらハはあそあんともしらハてお  
 母がぞくても又瘧のくもあもそくハてハてく  
 とゆよひあまも初のんをさよあひめくくまべハ初  
 のんハ一そのくままらしてハてハてハてハ  
 ちせの初あふらいつうかふらうかづ初あつておひそ  
 むる瘧そむるんともむむ瘧のひまよそてハ入そむるよ  
 初くま初ああおひくま初あああらつあ<sup>んて</sup>まら  
 おさあらぬ



患瘧

患瘧のひまのあつたときを又ハ人つてまはすてこぬ  
 とちのぶくたくく患瘧のひまのあつたときを又ハ人つてまはすてこぬ



御愁

色あつちやとちぢくを  
 相とせむら世より  
 うらあつちやとちぢくを 世の御愁 人めよあつちや  
 人づてはせてあつちや 世の御愁 のをいふに  
 けつとむらとちぢくを 世の御愁 のをいふに  
 ちやあつちやとちぢくを 世の御愁 のをいふに  
 うらあつちやとちぢくを 世の御愁 のをいふに  
 色あつちやとちぢくを 世の御愁 のをいふに  
 相とせむら世より 世の御愁 のをいふに  
 うらあつちやとちぢくを 世の御愁 のをいふに  
 色あつちやとちぢくを 世の御愁 のをいふに  
 相とせむら世より 世の御愁 のをいふに

見愁

新愁

新愁

新愁は我あつちやとちぢくを  
 相とせむら世より  
 うらあつちやとちぢくを 世の御愁 人めよあつちや  
 人づてはせてあつちや 世の御愁 のをいふに  
 けつとむらとちぢくを 世の御愁 のをいふに  
 ちやあつちやとちぢくを 世の御愁 のをいふに  
 うらあつちやとちぢくを 世の御愁 のをいふに  
 色あつちやとちぢくを 世の御愁 のをいふに  
 相とせむら世より 世の御愁 のをいふに  
 うらあつちやとちぢくを 世の御愁 のをいふに  
 色あつちやとちぢくを 世の御愁 のをいふに  
 相とせむら世より 世の御愁 のをいふに

敬しめしむるに又...  
ぬ女...  
うり...  
れど三傷...  
げあり...  
ま...  
お...  
ハ...  
てあり...  
独...  
ら...  
の...  
男...  
と...  
ウ...

名之惑

わ...  
の...  
ひ...  
や...  
無...  
名...  
あ...  
人...

無名惑

あつ

人修惑

人修...  
あ...  
人...

のこし人侍よのこははるれともちり  
斜けて人づて

逢るとして年月うらむとまるとり  
とてまるとつらまると又ら  
あやひしら子まかりとまるとも  
初からの初教ふとまると  
年とて、まるとつらつら

汗を  
下逢慈

夫年とて、まると久慈よ  
不逢慈はひろとまると  
とまるとあつてまると  
もまると不逢慈よと人  
と淡くまるとまるとこれ  
命まるとまるとまると  
といまるとまるとまると

とくんとといまると  
つらつれまるとまると  
もまるとまるとまると  
うくまると人のつれまると  
となまるとまるとまると  
乃まるとまるとまると

契六  
慈

契とハ契物なるといまると  
ひまるとまるとまると  
らひまると契物もといまると  
ひい又人のまるとまると  
のひとも又まると契物も  
又まるとまるとまると

誓意

疑意

愛意

侍意

りくよとハめまきてもかうりじと人の非也  
 りうあかしく相らうふゆあこまぬうきりうふ非つ  
 ううあまとい人のをよとあこりううこまこ好ま  
 くておれども別人乃心の底とあつぬぐうこり  
 心ともいひ又ハ我なりぬんよやうあまといこふ  
 心もああり 相このされどもあやびく  
 このむとハ人乃らなりとあま子このむ又ハ徳の  
 ちう世かろともいひまかこのまんとあとも  
 相このまろくれ相このむれ  
 侍意よとふれとむハタ人との何言かれが文  
 ちをよとむハタなまううう人乃らとて  
 文好をよとむりとなくあまあうつこのをよと  
 るハ侍意むりく明なるをく明下て侍意よハ  
 しびうらきりもても佛うらよ明ぬれハ又やこいも  
 びたうく明なるをたなま又こいひかうあつむとあ

疑意

稀意

りくよとハめまきてもかうりじと人の非也  
 りうあかしく相らうふゆあこまぬうきりうふ非つ  
 ううあまとい人のをよとあこりううこまこ好ま  
 くておれども別人乃心の底とあつぬぐうこり  
 心ともいひ又ハ我なりぬんよやうあまといこふ  
 心もああり 相このされどもあやびく  
 このむとハ人乃らなりとあま子このむ又ハ徳の  
 ちう世かろともいひまかこのまんとあとも  
 相このまろくれ相このむれ  
 侍意よとふれとむハタ人との何言かれが文  
 ちをよとむハタなまううう人乃らとて  
 文好をよとむりとなくあまあうつこのをよと  
 るハ侍意むりく明なるをく明下て侍意よハ  
 しびうらきりもても佛うらよ明ぬれハ又やこいも  
 びたうく明なるをたなま又こいひかうあつむとあ



後の世とあやうく今世の世

約志志ぬるふ今世の世

志の志ひとり又たくこひと親あつてうき

人の志ひで我ひとらあやう

約あひの志ひあつてを具かうては

いふ志ひあつて人の志ひといふ

やうなれはあつて又あつてうき

乃いふもあつてあつてあつて

とともあつ

約志志ういふ志ひあつて

くやういひあつて人もあつて

あつてあつてあつてあつて

ゆいあつてあつてあつてあつて

中へいふあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつて

思片思

厭意

悔意

七心悪

悔んくともあつてあつてあつて

るも今うらやまあつてあつて

くあつてあつてあつてあつて

かきかき 約あつてあつてあつて

先乃人の我といふあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

つてあつてあつてあつてあつて

うきあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

バ世中乃さあつてあつてあつて

いひ又あつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

犯人をわつてあつてあつてあつて

終恋

かなうらうらうらうら家も恋うらうらもうれし縁うらうらと  
 好がよいのらんがひもいぞうらうら水もいれら  
 ことれ果  
 中のうらうらうらうら中の縁ぬれぬのわの友  
 ハれぬうらうらうらうらひ人かおまかりぬれと  
 西新うらうらうらうらとともうらうらひこし秋もまも今うら  
 うら通縁とかりぬらんもいじく縁もせてハ中縁  
 うら節縁うらうらもそそぬかこころうらうら又縁恋  
 ようらうらうらうら乃志うらうらうらうらあうら  
 一役行老うらうらうらうら金奉うらうらうら  
 ことさんとてうらうらうら一書書この縁とてつくとし  
 ひげ縁ことらうらうらうらハ形とハらてうら  
 く縁とつうらうらうら行きてうらうらうらうら  
 め縁ぬれハ縁うらうらうら中縁うらうらうら  
 中縁うらうらうらうらうら  
 細中縁うらうら

愛戀

恋うらうらうらうら何かうらひ縁ぬらうらうらうら  
 愛ハ人の心うらうらうら或ハの心乃草ばうらうらよこと  
 一葉乃お葉のうらうらひやとてよなうらうらうら  
 のちひ乃あせのうらうらうら又愛恋よ末ねの  
 うらうらうらうらうらうらうら男女うらうら  
 うらうらうらうら我中うらうらうらうらうらうら  
 一げねは波乃うらうらうらうらうらうらうらうら  
 一うらありげ中縁うらうら末の縁うらうらうら  
 うらうらうらうらうらうらうら末の縁うらうら  
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 恨の心よハ初中縁あり初の心とハ人と恋をうらうら  
 くの心の恋とつうらうらうらうらうらうらうら  
 中の心恋とてうらうらうらうらうらうらうらうら  
 ありうらぬと恨うらうらうらうらうらうらうら  
 心のうらうらうらうら又うらうらうらうら又ハ中縁  
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

恨恋

旧戀

ふればあはれに紫のひざりてうらのまゆりのあはれが  
うらとよよせてのふ又あ人の後里のまぶるといふ  
ひさかありこれのな今集  
あ人のまむ里乃あふはあふはあふはあふはあふはあ  
いゆあふうり里のまぶるといひてうらとよよとせし  
再とと一又うらとよと浦はあふはあふはあふはあ  
衣のうらとよとせしもの

おととの紫里のまぶるといふはあふはあふはあふはあ  
あふはあふはあふはあふはあふはあふはあふはあ  
中経て久しくかたしあふはあふはあふはあふはあ  
あふはあ

感念

夢戀

おととふはあふはあふはあふはあふはあふはあ  
あふはあふはあふはあふはあふはあふはあ  
あふはあふはあふはあふはあふはあふはあ  
あふはあふはあふはあふはあふはあふはあ  
あふはあふはあふはあふはあふはあふはあ  
あふはあふはあふはあふはあふはあふはあ  
あふはあふはあふはあふはあふはあふはあ

老戀

初戀

とたなき又いふむらりののりまよとさうてがらうかよ  
あふはあふはあふはあふはあふはあふはあ  
あ人の恋とさうて我の老なりてやうさふはあ  
あふはあふはあふはあふはあふはあふはあ  
あふはあふはあふはあふはあふはあふはあ  
あふはあふはあふはあふはあふはあふはあ  
あふはあふはあふはあふはあふはあふはあ

初老そのりり我のあけぬらとつりらとこの命  
あふはあふはあふはあふはあふはあふはあ  
あふはあふはあふはあふはあふはあふはあ  
あふはあふはあふはあふはあふはあふはあ  
あふはあふはあふはあふはあふはあふはあ  
あふはあふはあふはあふはあふはあふはあ  
あふはあふはあふはあふはあふはあふはあ

初戀の再考

十

あつてどうよはせころなりむづいふよまの  
あとりーはくいづらふの夜かまふあり

を恋

あつてどうよはせころなりむづいふよまの  
あとりーはくいづらふの夜かまふあり

あつてどうよはせころなりむづいふよまの  
あとりーはくいづらふの夜かまふあり

近恋

あつてどうよはせころなりむづいふよまの  
あとりーはくいづらふの夜かまふあり

旅恋

あつてどうよはせころなりむづいふよまの  
あとりーはくいづらふの夜かまふあり

恋面釈

あつてどうよはせころなりむづいふよまの  
あとりーはくいづらふの夜かまふあり

○ 雑

山歌

あつてどうよはせころなりむづいふよまの  
あとりーはくいづらふの夜かまふあり

あつてどうよはせころなりむづいふよまの  
あとりーはくいづらふの夜かまふあり

の橋暖ふりりしやよ乃麓くどもあつなんと流る  
ハきよのおよひきよのあつりや枕の心とハぬや  
らうきよのふとハくよとのあひるるるり  
そぐいともしよ古渡とつてさうハうりぬる谷へ洞と  
つてさうハ水ある谷とよびづーとなん推橋とハあこ  
ま乃うよよ路しハ路の歌ハ谷のわそさうハ路のう  
よひちとふりかしてよびづー又路といくてもふまか  
入歩ゆ乃神とよちバけ松といハみおの松といつと  
の松くらさの松志づーさ乃松をよとくハ麓とつて  
さうハくハ麓とつてさうとつておけし山人といハハやま  
づらく又仙人といつてさうもあつ凡山とよびハまはむ  
咲あさら麓乃白雲と花よまづ人友念がりけ山のこ  
とととさかち林乃おぼそめなまハあーさささうとさう  
とさうさうハ舟のつとさう入ささささういやくとささ  
びくからさうな麓乃本葉も凡よとくれとらさあめ

のささあななく日とあるさうハ山乃山の八日めよま  
さうり冬さうりる堂主人いさささうの使とさういさう  
の凡本乃るも依もあつささささささく又及ひなささ  
人といつてハ本二の孫乃りさうさう地とさささささ  
さうせてさうれさささささささささささ松山のこささ  
さうさささささ代のこさうまなささささささささ  
さうつりさよとあるさもさうさささささささささ  
さささささささ

初かー川のささささささのさささささささささささ  
かさをのささささささささささささささささささ  
さささささささささささささささささささささ  
松村つれささささささささささ

美路といさささささささささささささささささ  
ぬさぬ又ささささの心あささささささささささ  
と奥ささささささささささささささささささささ

美

かき

十一









田舎

乃使と一為らくけふは人せせりてのちとて  
のち格のさるのちなをさうとす一じつれとて又とて  
らとひしよりハさびしく丹日とあるちくおとせ乃  
又とて一さうくハさびしく丹日とあるちくおとせ乃  
吾乃ちひもとげがさうくハさびしく丹日とあるちくおとせ乃  
さうくハさびしく丹日とあるちくおとせ乃  
細人とりぬ人けくれぬさびしく丹日とあるちくおとせ乃  
世よりさうくハさびしく丹日とあるちくおとせ乃  
湯乃きとさかハさびしく丹日とあるちくおとせ乃  
宝珠の歌よハさびしく丹日とあるちくおとせ乃  
ど能本中の宝珠がさびしく丹日とあるちくおとせ乃  
さいしとてハさびしく丹日とあるちくおとせ乃  
世よりさうくハさびしく丹日とあるちくおとせ乃  
湯乃きとさかハさびしく丹日とあるちくおとせ乃

田家

をどひて宝珠とてハさびしく丹日とあるちくおとせ乃  
もあつて宝珠とてハさびしく丹日とあるちくおとせ乃  
いぞとて宝珠とてハさびしく丹日とあるちくおとせ乃  
ど荒屋右砌ハさびしく丹日とあるちくおとせ乃  
知れぬ人もあつてハさびしく丹日とあるちくおとせ乃  
田家ハさびしく丹日とあるちくおとせ乃  
早苗とてハさびしく丹日とあるちくおとせ乃  
一とてハさびしく丹日とあるちくおとせ乃  
たつとハさびしく丹日とあるちくおとせ乃  
ともとてハさびしく丹日とあるちくおとせ乃  
那とてハさびしく丹日とあるちくおとせ乃  
てあつてハさびしく丹日とあるちくおとせ乃

高

田舎の歌よハさびしく丹日とあるちくおとせ乃

水心水のこころ

一いづれもあれそく人かひいざりて  
冷まらじし縁よりいふたさとも我もまがれり  
とどきりていふおれ一とのやうなれど縁より  
ハあれらんもいそむ世つての執各別く意と  
くら歌よそハ縁の古くまじりて  
新置ハあれてをのふりさの成らじぐ一荒一  
おれ 垣根人とらぬ人あつと置ふり  
水心ハ川づの置と川川の置とも川この村とも  
又水心の名ゆとまじりハ置のなうて  
らどあまのなと終まじり一名ハ徒川ハ川  
今後川まきの跡桂川とら大野川と田川とせ  
志望の浦歌彼三跡江と海は田川玉流川とせ  
あやうそ水心詠海情案之不可然  
と作し一はたれと一然うまハ今のちまハ  
りり詠海とハ難波なとと海とといふ

古寺

初ハ川のぬま水じ一ハ名ハよまていして  
りり詠海とハ難波なとと海とといふ  
古寺といふ歌よまらうとぬら一とてま  
うあバわけく又あそと後てもく一又名  
も後づ一名ハハとせ寺  
多一 一の六寺 といふ寺とて  
かゝの寺のなりては日く寺とて  
雲の寺 といふ寺とて  
このの寺 といふ寺とて  
かゝの寺 といふ寺とて  
あぢの寺 といふ寺とて  
ハどのくお熟乃をせありか  
とくいふ乃をせありか  
つゝいふ乃をせありか

古寺

釋教

はらうふれやうの御まかへに  
相あらういざうとまゝにいつれおのちあうとていひ  
能のこのうはのおんまゝにいつれおのちあうとていひ  
かかへ乃松の御まかへにいつれおのちあうとていひ  
うらうの御まかへにいつれおのちあうとていひ  
作スおのちあうのそのこゝれ家のいづれにのち  
いひおのちあうのそのこゝれ家のいづれにのち  
要文の御まかへにいつれおのちあうとていひ  
づくもあうとていひおのちあうのそのこゝれ  
り無たとていひおのちあうのそのこゝれ  
よの御まかへにいつれおのちあうとていひ  
乃松の御まかへにいつれおのちあうとていひ  
一母らんとていひおのちあうのそのこゝれ  
とていひおのちあうのそのこゝれ  
じとていひおのちあうのそのこゝれ

社又

よそまゝにいつれおのちあうのそのこゝれ  
おのちあうのそのこゝれ  
相の御まかへにいつれおのちあうとていひ  
己の御まかへにいつれおのちあうとていひ  
このひ件おのちあうのそのこゝれ  
そゝ外不可辨斗  
社又よや一乃のちあうのそのこゝれ  
と社祇と同奉なれどもあうとていひ  
下らぐりの社又よや一乃のちあうのそのこゝれ  
又よは張くといひおのちあうのそのこゝれ  
もいへ社又よや一乃のちあうのそのこゝれ  
及よよひもあうとていひおのちあうのそのこゝれ  
んといひ社又よや一乃のちあうのそのこゝれ  
らといひ社又よや一乃のちあうのそのこゝれ  
かろんま自石清水位者かど名とていひ



長傷

よせの初志のよびうらむとてくる者志れぬはむしと  
吾親まやむらむづのよとま  
[幸もむれ]と無常よ六世のたかぬるとひらく  
もいひ又さうあつて世人とてんくんとよむ長傷  
ハう一の人とてしりかいてたかんとて愚問答注長傷  
のよのらう終も地獄とて企てたてたよふよふとて  
うらんすめとてかちとて又毒計けよよ由度のこと  
このよたよとハ問よとてとてとてあるとて一問文述  
若たよのよのハ志と終もむれとてとてとてとて  
て千世万代たてとてとてとてとてとてとて長傷の  
中よたよとてれく終の有やとてとてとてとてとて  
よとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
終行無常と終とてとてとてとてとてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

旅

ひまの約よとらぬまはとてとてとてとてとてとて  
うらむとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
なつたよのひうらよとてとてとてとてとてとてとて  
もたぬとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
ハらつれもひとととととととととととととととととと  
のたつらよとととととととととととととととととと  
初とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
このせらとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
おつとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
うだらよとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
旅宿よとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
よて旅とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
旅宿のよとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
よむとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

かきかき

かき



設

のひまき方の終りよりのくどあつたれとて流石に  
 とのそとゆきかゝるに仲めふは乃てくくど流石に  
 けくどあつてくくどとて名にゆきかゝりてなごめけ  
 つまらぬまひとたごめけのねまよふとてくくど白皮と具  
 一月たつたは舟のりくか新袋士のききとてよまて  
 こくくど正新正して喜杖のくくどけおくくどまき  
 ゆきくふを重うしてむき乃親会とてあつたてくく  
 くくくんとてくくどくくくくくくくくくくくくくく  
 のまきくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 初のよせかてくくくくくくくくくくくくくくくく  
 笑つてくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 けくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 凡情たつてくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 けくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

うまらうひまきくくくくくくくくくくくくくく  
 かりりのしほ氏物詰の葉を源氏の君侯うくくく  
 ぐでくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 てくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 舞の舞いのくくくくくくくくくくくくくくくく  
 して松のちとせくくくくくくくくくくくくくく  
 舞がくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 人と笑くくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 千世万代のくくくくくくくくくくくくくくくく  
 らむけまといひくくくくくくくくくくくくくく  
 よくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 しくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 解らくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 流石にくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 されくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

万代の表万代の杖つぎせられしせられひびりさ  
いづ美い杖つぎりれささひ光とせ光らよ万代  
八百年代もさしもちあつらりりみえさ  
け外天象地係植物雜物生穀者此の歌うとくあり  
とつどもこいさなれはあづくこいとささ

名匠の筆

一 ち於清行曰びびりる納美なる名匠物のみ名とこのひ  
ぶくまど名匠いひくひも花の香村如葉よ八立田内を  
とらむて等しとささとれ名匠と名匠人のささ  
きぬ耳とささ名匠のさし葉よ八立田内を  
よていふやとささ名匠のさし葉よ八立田内を  
も好むとささ名匠のさし葉よ八立田内を  
よていふやとささ名匠のさし葉よ八立田内を  
よていふやとささ名匠のさし葉よ八立田内を



ちづしとさすもあり程く世さぬくぬゆるさそ  
一 八雲に傳名匠と傳とるよはつなれらる和と傳へ一但  
を伝はまらしてさうみみかをさうんも若一くさ  
さしとささその西よらとていささ歌をささささ  
時みかをささ名匠いひるささ一も名匠よめり  
てささひよいささ名匠いひるささ一も名匠よめり  
かさささのささささ名匠とも傳へ一くさ

同書西のささのささ事などよ八立今のささの  
あつさゆと伝ささ一とささ秀をなれらるささ  
名匠のささささ事とささ今今のささと傳へ一と  
ささのささささ事とささ今今のささと傳へ一と  
ささのささささ事とささ今今のささと傳へ一と  
ささのささささ事とささ今今のささと傳へ一と  
ささのささささ事とささ今今のささと傳へ一と



ときせ川あつてゆ水なく 紅藻は家とて後ねとりのへハ  
 ひりの藻取りとてうもいつあてまよひつらんよと云  
 りけひり藻とての今ハかまことまぢれどもひり  
 のまよふよむひとて又藻あつとて二度の浦よ  
 におりといひ位名のねま浪もあつとていひてこと  
 あつとていひていひていひていひていひていひて  
 一愚問賢注名は系物ハ赤雲と云おあつとても有はれ  
 例たくとともうまうんすくも一とあつとてうとて其  
 善よ云月雲と云霞たよとハつとてみもあるおかたれとて  
 つとてうとて可藻の中は是連尸とれとて凡くいひと  
 又夜あつとてよれ然人あまは赤雲とて月雲と  
 霞のいひていひていひていひていひていひていひて  
 赤とていひていひていひていひていひていひていひて  
 うちバ夜あつとてうとていひていひていひていひて  
 月ハ夜とていひていひていひていひていひていひていひて

の白根留土のねのいひていひていひていひていひていひて  
 いしとていひていひていひていひていひていひていひて  
 ちとていひていひていひていひていひていひていひて  
 一 同草本がどの名とていひていひていひていひていひて  
 表は中洲とて白赤のいひていひていひていひていひていひて  
 々との名はとて云再ハ夜とていひていひていひていひて  
 何の赤仙とてあつとていひていひていひていひていひて  
 いひていひていひていひていひていひていひていひて  
 るはとていひていひていひていひていひていひていひて  
 といひていひていひていひていひていひていひていひて  
 中納とていひていひていひていひていひていひていひて  
 とていひていひていひていひていひていひていひていひて  
 一とていひていひていひていひていひていひていひていひて  
 の名はとていひていひていひていひていひていひていひて  
 のおとていひていひていひていひていひていひていひていひて

うへにやうのことと述べたをうへにやうに述べたをうへにやうに述べた

一箇辭はとて其の下のものをハ境地のかりらるるハハ

所はとていふまゝかりらるるハハ境地のかりらるるハハ

一箇辭はとて其の下のものをハ境地のかりらるるハハ

所はとていふまゝかりらるるハハ境地のかりらるるハハ

一箇辭はとて其の下のものをハ境地のかりらるるハハ

所はとていふまゝかりらるるハハ境地のかりらるるハハ

一箇辭はとて其の下のものをハ境地のかりらるるハハ

おとよむしやうく物名の縁格とハことハ古今集の  
物名よりのやうハ

うへにやうのことと述べたをうへにやうに述べたをうへにやうに述べた

一箇辭はとて其の下のものをハ境地のかりらるるハハ

所はとていふまゝかりらるるハハ境地のかりらるるハハ

一箇辭はとて其の下のものをハ境地のかりらるるハハ

所はとていふまゝかりらるるハハ境地のかりらるるハハ

一箇辭はとて其の下のものをハ境地のかりらるるハハ

和

